

学校教育目標	めざす子どもの姿（中期的目標）
考える子 心の美しい子 たくましい子	1 自ら考え、友と協働して問題を解決する子ども 2 思いやりをもって、互いに相手を大切にしようとする子ども 3 自ら心身の健康を求め、目標に向かってがんばりぬく子ども

今年度の重点目標	評価平均	成果と課題
① 関わり合って考える子	3.0 A	・ペアやグループの活動を多く取り入れることにより、テーマに沿って話し合ったり協力したりしながら学ぶ中で関わり合うことの良さを感じるとともに、深い学びへと繋げていくことができた。
② すすんであいさつをする子	2.5 B	・以前に比べ元気にあいさつが返ってきたり、友達同士であいさつを交わしたりする姿が増えてきているが、個人差や場面による差が大きい。引き続き、職員から積極的にあいさつをしていくとともに、指導の工夫を考えていきたい。
③ 元気に身体をきたえる子	2.8 B	・体育集会やなかよし委員会の取り組みにより運動の機会が設けられた。また、元気に外遊びする姿も増えてきている。

領域	対象	評価項目	評価の観点	評価平均	成果と課題
学校教育	学習指導	授業導入の工夫	①子どもたちが一時間の見通しをもつことができているか。 ②子どもたちは興味関心をもって授業に臨んでいるか。	2.9 B	○授業の前に板書ノートをつくって授業に臨んだことで、教師自身が見通しをもって授業を行うことができた。学習のポイントや考えるべきことが明確になった。 ○1時間の流れをタイムテーブルにして示したり、1時間の流れが分かるような板書を心がけたりしたため、児童は見通しをもって授業に臨むことができた。 ○子どもたちの疑問や関心から学習問題を設定し、できるだけ児童の言葉で提示している。 ●何を学習していくかが全員に浸透していなかったり、与えられた課題に取り組んでいるという意識から脱却できない授業になってしまったりする。 ●ICTの活用を進めていく中で、板書が滞ってしまうことがあり、どのように位置づけていくかが課題である。
		授業展開の工夫	③子どもの意欲・意識を大切にしたい授業を行っているか。 ④体験活動や操作活動等の五感を働かせる活動を位置づけているか。	2.8 B	○具体物を使った操作活動、映像によるイメージの共有、調べ学習や体験活動などをできるだけ取り入れることにより、児童の学習への意欲が高まった。 ○一人一台端末の活用により、児童が自分の課題解決に向けて情報を収集したり、一人一人のニーズに合わせて分かりやすく指導したりすることができた。 ○児童が「やってみよう」と思えるような教材の工夫や、ジグソー法などの学習形態の工夫により、児童の達成感や満足感につながる授業となった。 ●体験活動を取り入れるの良さを感じているが、毎回の授業に位置づけることは難しい。できる範囲で五感を働かせた活動を取り入れていきたい。
		授業終末の充実	⑤自分の学びをふり返ったり、友だちの学びを認め合ったりする場を設けているか。	2.4 B	○振り返りの場面では、疑問に残ったこと・もっと知りたいこと・大事なこと・できるようになったこと等を記述・発表し、次時の学習につなげた。 ○導入の時間をできるだけ短縮し、まとめの時間を充実させた。友だちの学習に対しての一言メッセージを書いたり発表し合ったりすることを取り入れた。 ●自己の振り返りはできたが、他者との共有や友の学びを認め合うところまでは達していない。しっかりと見届けなくてはと反省している。
生活		あいさつが響き合う	⑥あいさつの声が校内・校外で響き合う学校に向けて取り組んでいるか。	2.5 B	○教職員から児童へ積極的にあいさつをしたり、教職員同士でも明るいあいさつを心がけたりしている。児童会活動でも、毎朝「あいさつ隊」に力を入れている。 ○道徳の授業では、あいさつの大切さを考え合ったりロールプレイを通してあいさつの気持ちよさを体感したりしている。今後も継続的に取り組んでいきたい。 ●いろいろと取り組んではいるが、現状はなかなか変わらない。クラス全体での核となるような活動を工夫していく必要がある。
		早期発見早期対応の生徒指導	⑦学年・学校として、職員が連携して子ども達の課題に取り組んでいるか。	3.2 A	○学年会・職員会議等で児童理解の時間を十分に取って、職員が子どもたちの様子を共通理解している。特に、学年会ではいねいに情報を共有するとともに、学年全体で子どもたちを見守る体制がとれている。そのため大きなことになるところに事前に対応ができ、大事に至らずにここまで来られた。 ○特別支援教育コーディネーターが児童の様子を参観し、支援の在り方についてアドバイスする体制ができているのでありがたい。
学校運営	地域との連携	学級づくり・仲間づくり	⑧道徳や特別活動の時間で、子どもと教師間・子どもと子ども間の信頼関係を構築する活動が行われているか。 ⑨子どもが自分を見つめ直したり所属感を高めたりできるような相談・面接活動を行っているか。 ⑩体の成長に目を向けたり、積極的に体を動かしたりするような環境づくりや子どもたちへの働きかけを行っているか。	2.9 B	○子ども同士の関係構築・担任と子どもとの関係構築は、学級経営の中心に据えている。 ○一人一人に役割をもたせ、活躍する場をつくってきた。また、子どもたち同士でよいところを見つけあう活動を続けてきたことで、子どもたちが自然によいところを伝え合う姿が見られるようになってきている。自分のよさを受け止めるとともに、友だちのがんばりを認める気持ちが育っている。友だち同士で認め合ったり協力し合ったりする場面を、クラスの中で大切にしていき、子ども間の信頼関係をさらに強くしていきたい。 ○クラスの子ども一人一人に、一日に一度は話をしよう意識している。児童の自己肯定感を高められるような声かけも心がけている。児童一人一人としっかりと話すことで不安やがんばりたいことなどを受け止めることができたと思う。 ○子ども同士の関わりの中で、気になることがある時は、本人だけでなくクラス全体に問いかけ、みんなで考え、次に生かせるようにすることもあった。 ●なかよし月間を中心に子ども同士でよさを伝え合うとともに、日常的にクラスの声かけをし、よさを伝えてきた。しかし、褒められた、認められたと実感できていない子がいる。まだまだ不足しているのか方法が悪いのか、改善できるよう考えていきたい。
		適切な情報発信	⑪学校・学年・学級の指導方針や様子について、学級懇談会やお便り、HPなどでわかりやすく伝えているか。	2.9 B	○学校だよりや学年・学級だより、そしてホームページで、学校の取組や子どもたちの様子をお伝えしている。連絡だけでなく、写真を活用して分かりやすく情報を発信したり、教師の願いも伝えたいと考えて作成している。 ●学級通信がなかなか発行できずに過ぎてしまったので、3学期には学級の様子を伝えていきたい。
		P.T.Aとの協力	⑫P.T.Aと協力しながら、よりよい学習活動や学習環境作りをめざした活動が行われているか。	2.8 B	○コロナ禍のため機会は限られてしまっているが、P.T.A作業やP.T.A講演会、新聞づくり等、できる範囲で充実した活動を進めていただいた。絵本同好会の皆さんの読み聞かせも、コロナ感染状況を踏まえて実施することができ、子どもたちも喜んでいました。
		地域との交流	⑬神川小ボランティア・学習ボランティアがスムーズに行われているか。	2.6 B	○休み時間のボランティア活動、日本語教室を中心とした学習ボランティアと、日常のご協力をいただきありがたかった。 ○5年生の米作りは、今年度も年間を通して指導していただき、大変お世話になった。お陰様で充実した学習ができ、12月には感謝の気持ちを伝えようと、収穫祭にお招きすることもできた。
研修	授業改善の研修	⑭「明日も来なくなる学校」の具現に向け、授業力向上のための研究や研修が実践できているか。	2.8 B	○ICT教育、特別支援教育、保健安全等幅広い研修の場を設け、学ぶことができた。校外の研修にも積極的に参加した。 ○全職員の授業を見合う場があり、職員間で学び合うことができた。授業については研究部会を中心に考え合ったり授業研究を行ったりと充実していた。 ●日々の仕事の忙しさで、研修・研究の機会がなかなかとれないので、時間の確保ができるよう、校内体制を見直していきたい。	